

教育目標		命輝き 笑顔輝く 昆陽里小学校 一心豊かにたくましく生きぬく力を育てる						
重点目標		①一人ひとりを生かし、確かな学力の定着を図る学校 ②学習する意欲や豊かな心を育む環境が整備された学校 ③家庭や地域と密接に結びついた開かれた学校						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的、基本的な知識・技能を習得させる。</li> <li>授業力の向上と授業の改善をめざした校内研修会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週に1回程度は、漢字の小テストを行い、定着を図る。</li> <li>全国的に使用されているワークテストを活用し子どもたちの基礎的、基本的な力をよくみとる。</li> <li>音読カードを工夫し、滞りなく音読できるようにする。</li> <li>できる、わかる授業作りをすすめる。</li> <li>全学年が算数科を中心に授業力向上のための授業公開を1回以上する。</li> <li>1人1台端末の文房具化を目指し、日々の授業の中で端末を使う機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字大テストで学年平均が80点を超える。</li> <li>全体の平均点が85点を超える。</li> <li>100字程度の文章を滞りなく読むことができる。</li> <li>児童アンケートの「授業がわかりやすく楽しい」⑫「先生は教え方を工夫している」⑭で80%以上の回答。</li> <li>学力向上のための全校公開授業数が6回をこえる。</li> <li>校内研修を行うとともに、80%以上の児童がスクールタクトやZoomの操作がほぼ一人でできる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年に応じた漢字テストを行い、大テストに向けて準備をした平均点は80点を超えるようになってきたが、児童の点数に大きく差がでている。</li> <li>全体の平均点は、学年があがるほど下がる傾向にある。基本的な力の習得できている児童がいる半面、習得できていない児童がいる。</li> <li>どの学年も音読を繰り返し、100字程度の文章を滞りなくよむことができるようになっていく。</li> <li>児童アンケートの結果、公開授業の回数ともクリアすることができている。ただ、職員数に対して、授業者が少ないので、できるだけ多くの教員が授業に取り組み見合う仕組みに課題がある。</li> <li>3年生以上の児童がほぼ1人で操作できるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台の端末も活用しながら、漢字の習得に向けて教員の研修を行うとともに、児童も漢字の学習方法を学べるような授業に向けていく。</li> <li>習得できている児童への発展的な課題への取り組み、習得できていない児童へのフォローをどのように行かかを検討する。</li> <li>初見の文章でもすらすらよむことができるように、より多くの文章にふれられるよう、図書の時間を有効に活用していく。</li> <li>学期に1回は授業公開ウィークを設定していきたい。</li> <li>低学年児童がどのように取り組んで行けばよいのか1つめの課題である。3年生以上は、どのように活用していくのか今後の課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり1台のタブレットが整備され、使い慣れていく姿がみえた。</li> <li>特色ある教育課程として金曜日6校時枠にパワーアップタイムを設け、学力低位層の児童への学力補充の枠組みが既にできている。今後は、期待される効果が得られているかを検証することが必要である。</li> <li>教員の授業公開により授業力向上にむけて、教員の縦横の繋がりを強化していく取り組みにして来年度も継続して実施し、授業力向上そして学力向上につなげてほしい。</li> <li>毎日、タブレットの持ち帰りを行った成果として一人ひとりが活用できるようになった。</li> </ul>
	学習習慣の定着と読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習を充実させ、家庭学習の定着を図る。</li> <li>読書活動を充実させ、表現力・創造力の豊かな子どもを育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の机に向かう意識向上と保護者の関わりをより促すよう、がんばりカードの形式を改善する。</li> <li>児童の興味関心を引き出すような図書の選定を行う。</li> <li>二教室になった図書室の環境を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートの「家庭において目安の時間～低30分、中60分、高90分～」で80%以上の回答。⑦</li> <li>児童アンケートの「進んで読書をしている」で90%以上の回答。⑧</li> <li>電子化が完了し、運営がしやすくなる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値の達成はできなかった。</li> <li>昨年度が75.1%に対し、今年度は80%で少し上がったが、さらに進んで読書に取り組める子が増えるように取り組んでいかなければならない。巡回図書や図書館の団体貸し出しを利用し、子どもの興味を引き出す本の選定ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の評価を時間で行っていくのか、学習内容で行っていくのか個別最適な学習といわれているので検討が必要である。</li> <li>意図的に読書の時間を作る。(週末の家庭学習や給食の待ち時間や学習のすきま時間など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がんばりカードについては、保護者より「いつもより勉強を頑張る上にノーゲームがプラスされて我慢を重ねられている」との声があり、鉛と鞭の使い分けを大人でうまく使い分けする。</li> </ul>
豊かな心	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「心の教育」を推進する。</li> <li>いじめ問題への対応力の向上に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表委員会の児童と共にあいさつ運動を推進する。</li> <li>人権学習を実施する。</li> <li>年2回アンケートを実施し早期に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの「あいさつをしている」で90%以上の回答。④</li> <li>児童アンケートで「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」で90%以上の回答。⑧</li> <li>児童アンケートの「学校へ行くのが楽しい」、「学校行事は進んで参加している」で90%以上の回答。①③</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの「あいさつをしている」で83%の回答。④前年度比+0.1自ら進んであいさつができる子が増えるような取</li> <li>児童アンケートで「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」で88%の回答。⑧前年度比-0.4%</li> <li>「仲の良い」友だちがいるでは前年度から1.3%下回った。</li> <li>成果としては、職員間で児童の実態把握やいじめや問題行動等への対応等の研修を実施してきたこと。課題としては、年2回のアンケートを実施する中で、担任が改めて気づくケースも多かった点である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策に留意したルールに準じてあいさつ運動を推進していく。あいさつ強化週間を学期ごとに設ける。</li> <li>各学年の児童の実態に合った教材を選び、子どもに寄り添った人権、道徳学習をしていく。また、友だち同士のつながりができるよう学級に応じて工夫して取り組んでいく。</li> <li>本校は、生活指導上の問題行動も多いことから、未然防止や対応力の向上に繋がる職員研修の充実や、児童が相談しやすい学級風土づくり、さらには職員間での「報告・相談・連絡」の徹底に取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の見守り活動や、旗当番のとき、あいさつを返してくれる子どもが多く、微笑ましい。中学生の方が、積極的にあいさつを返してくれる。小学生は、知らない人には抵抗があると思われるが、気持ちのよいあいさつのできる子どもに学校、家庭、地域が連携して育てていきたい。</li> <li>課題ごとに問題点に対応している。子どもたちの安全ないい場所づくりに努めてほしい。</li> </ul>
	健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康的な生活習慣を育む態度を育てる。</li> <li>児童の健康の保持・増進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間に身体を動かす機会、場を設定する。</li> <li>こやチャレを計画・実施し、スポーツを通して体を動かす機会をつくる。</li> <li>夏休みと冬休みに歯磨きカレンダーを活用し、家庭での歯磨きの習慣をつけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの「業間は外遊びをしている」で80%以上の回答。⑮</li> <li>年間2回こやチャレを実施する。</li> <li>保護者アンケートの「学校は子どもの体力向上や心身の健康のための取り組みを行っている」で90%以上の回答。⑪</li> <li>歯みがきカレンダー表彰で、全クラスが年間1回以上表彰される。⑩</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年続いて60%台の結果なので、80%の課題目標を達成するためには、業間休みの過ごし方を児童まかせでは達成できそうにない。</li> <li>回数目標は達成しやすいが、委員会活動の回数が減少したことで、企画自体が難しくなっている。</li> <li>コロナ感染防止のため給食後の歯みがきは今年度も実施できなかったのがクラス表彰はできていない。夏休みに歯みがきカレンダーによる啓発を行い家庭での歯みがきの習慣化への取り組みは実施したところ、ほぼ全児童が提出した。また、健康委員によるほけんだよりで歯みがきカレンダーの意義を伝えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を70%に変更し、スポーツ委員会からの啓発や運動、遊びの紹介などで、主体的な姿勢を育むことを大切にしたい。</li> <li>児童の実態に合わせ、アンケートの項目を「業間または昼休みに外遊びをしている」に変更する。</li> <li>委員会活動の回数も考慮しながら目標を設定する。</li> <li>歯科健診の結果より受診率(36%)が低いので、11月8日(いい歯の日)頃に2回目のお知らせをする。</li> <li>歯の健康だけでなく、その他の健康課題にも目を向けて取り組んでいきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外遊びについては、目標値を70%に変更し、前年度比では上回っている。担任の先生がみんな外遊びをしようと働きかけていることはよい。一方、外遊びすることが休み時間の過ごし方として最適というわけではない。大切なことは、自分がそのとき何をしたいかを考えて、主体的に過ごせることではないか。</li> </ul>

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。	・学校便りを月1回以上発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを週1回更新し、日々の活動や行事を通して学校の様子を伝える。	・学校便り、学年便りを月1回以上発行する。 ・学校ホームページを週1回更新する。 ・保護者アンケートの「学校は、お便りやホームページなどを通して教育活動の内容や様子を知らせていることを知っている。」で90%以上の回答。⑬	A	・学校便りやホームページを通して、行事の様子や日々の活動などの学校の様子を発信することができた。 ・ホームページの更新はほぼ毎日行うことができた。 ・保護者アンケート「学校は、お便りやホームページなどを通して教育活動の内容や様子を知らせていることを知っている。」⑬で、97%の保護者から肯定的回答を得ることができた。	・ホームページ更新に関しての役割を決めたり、職員間で情報機器の知識や技術の共有を行ったりすることで、情報発信に関する職員の意欲を醸成する。	・コロナ禍にあり、今まで以上にホームページが保護者間で情報源として意識されている。発信するところに情報は集まるという。学校だよりをはじめ、ホームページ等による情報発信力に期待した昨年度。本年度はほぼ毎日のホームページ更新により学校の様子がみえた。
	学習環境の整備	・学習環境の整備を行う。	・清掃週間等を活用しながら、清掃指導の徹底を行う。 ・環境美化委員会活動を通して、清掃活動に向かう気持ちを高めさせる。	・保護者アンケートの「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」で90%以上の回答。⑩	C	・保護者アンケートの「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」で87.7%の回答。⑩前年比-4.6% ・スクールサポートスタッフが換気やトイレ掃除等を行い、感染症対策を補充している。	・清掃週間や環境美化委員会を更に活用して、清掃指導の徹底を行っていく。	
	地域との連携	・地域との交流を図る。	・学校公開日、参観授業等を実施し、地域との交流を図る。 ・学校運営協議会の学校参画。 ・地域の水田ピオトープで発達段階ごとに米作り体験を行う。(コロナの為、未定) ・こやっ子グリーンサポーターズを中心に学校の植木や花壇等の環境整備を保護者と共に行う場をもつ。	・保護者アンケートの「地域に開かれた学校だ」で90%の回答。⑮ ・協議会を年3回実施する。 ・代掻き、田植え、稲刈りの体験活動を行う。(コロナの為、未定) ・花壇の花々の植え替えや土壌改良を保護者と共に学期に1回以上行う。	B	・保護者アンケートの「地域に開かれた学校だ」で88%の回答。⑮ ・コロナ禍の中でも、学期に1回参観を実施できた。 ・地域との関わる教科を組み立てている授業が少ない。 ・学校運営協議会を2回実施(3回目は開催予定)した。 ・土曜こやっ子学習でもタブレットを使って学習できるようにした。 ・米作りの体験のため、感染状況に対応して時期をずらして実施することができない。コロナの感染防止のため、やむなく中止した。 ・こやっ子グリーンサポーターズが月1回程度、土壌改良や季節ごとの花の植え替え、技能員が毎日の水やりや手入れにより花壇等をきれいに保つことができた。	・コロナ禍がおさまった後、各学年で地域と関わられる教材をおこし、進んで地域を招いたり地域へ出て行ったりする。 ・学校運営協議会における協議内容をホームページで公開していることを教職員も周知し、教育活動に活かしていく。 ・米作りだけでなく、地域と関わりをもちながら学習できる新たな取り組みを地域と学校が相互に考え実施を目指す。 ・こやっ子グリーンサポーターズと教職員が同じ時間に活動することは難しいが、互いに環境整備に取り組んでいることが伝わるように、活動の様子をホームページに載せて活動を広める。	・学校行事も地域行事も縮小もしくは中止となる中、交流は難しかったと思われる。次年度は、感染症対策を講じながら、できることを検討していただきたい。令和2年度よりは少し活動できた。Sc21の活動も再開できた。
	保護者との連携	・行事の公開、懇談会、参観授業を充実する。	・家庭の要望に寄り添った懇談会の内容の精選と内容の充実を目指す。 ・参加しやすいように日程を調整する。 ・PTA学力向上委員会と連携し、年2回の家庭学習がんばりカードを有効に活用し、学習習慣を身につけさせる。	・保護者アンケートの「学校は保護者が授業や行事などを参観できる機会を適切に設けている」で90%以上の回答。⑭ ・コロナ禍にも対応した分散開催を行う。 ・資料を配付し、各家庭に学習習慣が定着するよう、啓発を図る。	B	保護者アンケートの「学校は保護者が授業や行事などを参観できる機会を適切に設けている」で93%の回答。⑭ ・コロナ禍の中で懇談会をもつ機会が少なかった。 ・少しの時間でもどの学年も参観できるように、時間構成に配慮した。 ・学年の児童の様子に応じたがんばりカードを作成し、6・1月に2回実施した。 ・高学年は、一日の目標時間が90分のため、達成することが難しいという意見がややあった。	・各学期ごとに懇談会の内容を整える。「おこづかいについて」「携帯の持ち方について」「パソコンの使い方について」「学習時間のもち方」等 ・コロナ禍での教育活動が続くことが予想される。状況に応じて保護者等の来校機会を維持するために、実施可能な開催方法の検討を継続する。 ・PTA学力向上委員会を通して、目標設定時間を再検討する。 ・教職員による取り組みではなく、PTAとして保護者と教職員が共に子どもの家庭学習の定着を図る取り組みであることを確認し合う。	

学校関係者評価総括

- ・新型コロナウイルス感染症対策を適切に講じながら、行事等を中止するのではなく、工夫し、進めてきたことを評価する。
- ・あいさつのできる子どもたちを育てることは、家庭、地域が一体となって行うことである。
- ・全員が「学校へ行くのが楽しい」と思える学校づくりをめざしてほしい。そのためには、感染症対策を講じながら、学び合える授業を進めていくことに期待する。
- ・情報リテラシーの知識理解を保護者、子どもともに促進し、授業や家庭学習でのタブレットの積極的な活用に期待する。
- ・若手教員、中堅教員のライフステージに応じた人材育成が重要である。

重点年度に改善に向けた	<p>1 児童の学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動を中心に据えて、教職員の資質の向上を図り、授業改善を推進する。</li> <li>・ミドルリーダーを核として、同僚性を高めるとともに授業力の向上を図る。</li> <li>・客観的な数値に基づき、学力を検証し、学力向上プランを見直す。</li> </ul> <p>2 児童の自尊感情の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居心地のよい学級作りにより、安心して学校生活を送らせる。</li> <li>・異学年交流により高学年に自己有用感をもたせる。</li> </ul>
-------------	---

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標通りに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った